

【作品介绍】

いいむろなおきマイムソロ公演「マイムの時間」

* 作品上演時間:約1時間10分

プロローグ:

舞台中央でのウォーミングアップ風景。体を一部分ずつ動かしたり、逆に一部分だけを動かさずに止めたり...「人の体は結構動くんだな」と感じる導入部分の後は、多くの人がマイムと聞いてまずイメージするパントマイムの不思議なテクニックを中心とした作品。まさに、「見えないものが見えてくる...」



ハエ:

西部劇に出てきそうなバー。
ガンマンと一匹のハエが繰り出す決闘!
その勝負の行方は...?
ハエとガンマンの入れ替わりが見所で、
キャラクターがハッキリとした
分かりやすい作品です。



エンジェル:

海底に沈む宝を探しに水中に潜るダイバー。
なのにタイトルは「エンジェル」...?
その答えとは...。
マイムのスローモーションや水中の演技、
ストーリーの展開でみせる作品です。



ストレッチガウフタリ:

巨人と小人、すれ違ってばかりで出会えない二人...。
パネルを舞台中央に立て、その後ろで瞬時にキャラクターを入れ替え演じ分けます。

コンダクターの悲劇:

指揮者に忍び寄る悲劇とは!?
いいむろ作品の中では最短、1分で結末を迎える作品です。
さて、1分で何ができるのか?



蛙の一生:

卵からおたまじゃくしに...手が出て足が出て...。
蛙の成長とその人生を、G線上のアリアの調べにのせて、
蛙の目線で演じます。

エスケープ:

逃げる主人公をカメラが追っているような、映像的な動きを取り入れた作品。
いいむろ独自のテクニック「タイムスライス」をつかって、身体ひとつで映画のような世界をおみせします。
もちろん、ワイヤーなし、CGなし、つかうのは身体ひとつです!



手:

顔には黒いマスクをかぶり、舞台中央から一步も動かず、
「手」のみで演じます。
照明に照らされた手は、色々なものに姿を変えます。
みる側の一人一人が感じたこと、みえたもの、それが正解です。

エピローグ:

いろいろな世界を作り出すマイムの世界。
それを作っていたのは、そこにいる人間の身体一つ...。
作品を締めくくる、作者いいむろの姿です。